

令和7年9月定例会の概要

令和7年9月定例会が、9月3日から10月1日にかけての期間で開催され、提出された全ての議案が可決、承認されました。志翔会からは大河原裕勝議員、薄井長広議員、伊藤典夫議員が市政一般質問を行いました。本号では一般質問の内容（抜粋）、9月補正予算の主な内容等についてご報告いたします。

令和7年9月補正予算について

令和7年9月の補正予算は、当初予算編成方針を継承しつつ、住んでみたい、住み続けたいと思えるまちづくりを推進するため「選ばれるまち」や「新たな行政課題や需要への対応」として、時宜をとらえ、いま必要な予算が編成されました。

■ 予算規模

一般会計：50億7,691万6千円（累計1,476億2,071万3千円）
 特別会計：7億4,603万1千円（累計1,043億6,004万2千円）
 総額：58億2,294万7千円（累計2,519億8,075万5千円）

■ 可決された主要事業

以下の事業に係る補正予算を審議し、可決しました。

● 子育て支援の充実

「ペップキッズこおりやま」の利便性向上のため、令和8年4月からのWEB予約システム導入に係る予算を可決しました。年間20万人以上が利用する施設の混雑緩和と利用者の利便性向上が期待されます。また、公立保育所の児童の安全対策として、うねめ保育所への所庭フェンス及び門扉設置予算を可決しました。

● 環境保護の推進

猪苗代湖のラムサール条約湿地登録（令和7年7月15日）を記念した10月のラムサール条約交流会開催予算を可決しました。循環型社会の実現と気候変動対策の強化、条約の3つの柱（保全・再生、賢明な利用、交流・学習）の更なる推進に向けた事業費を可決しました。

● 地域経済の活性化

若年層の流出防止や移住・定住促進につながる企業誘致を効果的に進めるための首都圏企業等を対象とした投資動向調査費

を可決しました。また、転入者の声を今後の施策に反映させるための「選ばれるまち・こおりやま」レポート作成予算を可決しました。

● 公共施設の整備

高齢者施設6施設の防災・減災対策（非常用自家発電設備、冷暖房設備等）に係る補助金を可決しました。東山悠苑における冬期（12月～3月）の火葬対応件数を1日18件から20件に拡充するための業務委託費を可決しました。

● 農業支援の充実

市内で初めて確認されたトマト黄化葉巻病のまん延防止対策として、防虫ネットや気門封鎖剤等の購入費用の一部補助（標準事業費の1/3以内、上限15万円/10a）に係る予算を可決しました。

● 道路環境の整備・改善

予防保全型の維持管理による舗装修繕や側溝改修等の道路環境整備費（1億9,900万円）を可決しました。気候変動によるゲリラ豪雨等への対策強化も含まれています。



インターンとして市議会を学んだ、学生組織ドットjpの学生さんと。

■ 前年度比較

対前年度9月現計予算比：1.3%減（31億9,564万1千円減）

議員紹介

・氏名 ・期数/地区 ・連絡先
 ・会派役職 ・市議会役職



事務局次長
 総務財政常任委員
 郡山市都市計画審議会委員
 広聴広報委員

1期 西田町
 本 豊 090-6253-8473



事務局次長
 議会運営委員
 建設環境常任委員
 政務活動費経理責任者会議座長

1期 喜久田町
 大河原裕勝 953-5617



政務調査会副会長
 建設環境常任委員会副委員長

1期 安積町
 薄井 長広 090-2791-7000



事務局長
 文教経済常任委員会副委員長

1期 湖南町
 伊藤 典夫 090-4880-7761



政務調査会長
 議会運営委員
 生活福祉常任委員
 広聴広報委員長

1期 久留米
 加藤 漢太 090-2027-4131



幹事長
 議会運営委員長
 総務財政常任委員

3期 安積町
 森合 秀行 953-7885



顧問(元議長)
 総務財政常任委員
 郡山地方広域消防組合議会議員

5期 三穂田町
 塩田 義智 945-2015



郡山市議会議長
 郡山地方広域消防組合議長

5期 緑ヶ丘
 近内 利男 942-7967



会長
 議会運営委員
 生活福祉常任委員会委員長
 郡山地方広域消防組合議会議員
 郡山地方社会福祉審議会委員

5期 方八町
 久野 三男 943-3200



最高顧問(前議長)
 文教経済常任委員
 郡山地方広域消防組合議会議員

5期 大槻町
 佐藤 政喜 951-2316



相談役
 建設環境常任委員
 郡山市都市計画審議会委員
 郡山地方広域消防組合議会議員

6期 安積町
 大城 宏之 945-6566

9月定例会市政一般質問

要旨

銚子ヶ滝の更なる整備活用について

問 銚子ヶ滝は「日本の滝100選」「福島の水30選」にも選ばれている。アクセスしやすい道路や休憩施設の整備など自然環境を守りつつ観光資源として、郡山市の大きな観光スポットとして進めるべきだと思うが、見解は。

大河原裕勝



答 これまでも、滝に向かう1.4kmの遊歩道の草刈りや落石防止工事を行うなど自然環境に配慮し取り組んでいる。今後も遊歩道の維持管理や危険個所の点検など環境整備に努める。



銚子ヶ滝の入り口

除雪路線の見直しについて

問 2月のような、災害級の積雪となった場合、集落や家屋につながる対象路線外の生活道路の除雪は個人での対応が難しい。除雪での対応範囲や集落、家屋の状況等を勘案し、除雪路線の見直しを行うべきと思うが、見解は。

答 毎年、6月から9月にかけて除雪事業計画の改訂を行い、除雪路線の見直しを行っている。令和6年度から導入している除雪管理システムで把握した稼働実績や、除雪作業に従事された方々及び地域住民の皆様から寄せられたご意見を伺いながら見直し作業を進める。

志翔会FOCUS

■ 今後の展望

令和7年9月補正予算は、「選ばれるまち」と「新たな行政課題や需要への対応」の2つの柱で編成されました。ラムサール条約登録を契機とした環境保護の推進、子育て支援の充実、防災・減災対策の強化などの予算が計上され、適切に審議のうえ議決しております。今後も、市民の安全・安心な暮らしを支える施策について、市議会として実施状況を注視し、必要な議論を重ねてまいるとともに市議会として、気候変動への対応、デジタル化の推進、持続可能なまちづくりなど、時代の要請に応える行政施策について適切に審議を行い、市民の声を市政に反映させながら「ウェルビーイング都市」の実現に向けた取り組みの推進をしてまいります。

■ お知らせ

議会の詳細な審議内容については、市議会ホームページ (<https://www.city.koriyama.lg.jp/site/gikai/>) でご確認ください。また、本会議の様子はインターネット中継でもご覧いただけます。

編集後記

9月議会では、新議長に近内利男志翔会前会長が選出されました。また会派の新会長には久野三男市議が新たに就任しました。常任委員会も含め新しい体制となり、様々な課題と向き合い、新たな議会運営改革に「直球勝負」で取り組んでいきます。(大河原)



大雪による除雪作業（石筵地区）

「猪苗代湖」ラムサール条約湿地登録後の湖南町の地域振興策と関りについて

問 登録後の湖南町における生活の新たな規制はあるか。また、湖南町の観光資源等を活かした地域振興策をどう展開していくのか。

伊藤 典夫



答 新たに湖南町を含む地域住民の皆様に影響を及ぼすような規制はない。湖南町は自然豊かな観光地であるほか、「湖まつり」や「布引風の高原まつり」などの地域特性を生かした観光資源が沢山ある。これを機に猪苗代湖の国際的認知度の向上による観光需要が期待され、多くの方々に魅力を知っていただく絶好の機会であり、来年開催の「ふくしま destinations キャンペーン」においても湖南町の魅力ある観光資源を発信していく。更に、湖南七浜の滞在環境の上質化に向けた受け入れ環境の整備を進めると共に、交流人口の増加を図るなど、観光振興による地域経済の活性化に努めていく。



鬼沼から望む猪苗代湖

郡山合同庁舎移転に伴う本市の対応について

問 郡山合同庁舎移転後の利活用について、見解は。

答 今後の利活用について、7月には本市から県庁へ出向き合同庁舎の在り方について、8月には県庁担当課が本市を訪れ、耐震改修や設備の更新状況などについて話し合いを持った。9月2日に文化財指定に関する趣意書及び署名の提出があったが、文化財指定にあたっては所有者の県の同意が必要となる。更に築95年経つことから躯体の劣化度や設備の更新状況などの様々な課題があるので、引き続き県とコミュニケーションを図りながら検討していく。



現郡山合同庁舎

持続可能で活力ある町内会活動の実現について

問 新たな補助金・謝礼金制度の導入について、見解は。

薄井 長広



答 本市では、多種多様な市民力や地域資源を生かした協働のまちづくりを推進するため、平成20年度に「ひとまちづくり活動支援」補助制度を創設し、町内会を含む市民活動団体が行う地域の課題解決や新たな価値の創造につながる子どもや高齢者のための地域づくり活動や、まちづくり活動のスタートアップを支援している。一律的な支援制度の創設については、調査研究していく。



町内会主催の「神明下夏祭り」

「こおりやま宝探しプロジェクト」について

問 市民がガイド役となるなどし、市民が主役で進める観光まちづくりの成功例の「長崎さるく」のように、市民参加による魅力発見の取り組みが必要と考えるが、見解は。

答 本市では地域住民を対象として、まちの魅力やブランドに対する愛着や誇りを高め、持続的な地域発展を目指す様々な施策を展開している。また平成30年度から実施しているインスタグラムによるフォトコンテストでは、こおりやま広域圏内の知られざる絶景スポットや、隠れた名所を捉えた写真が数多く寄せられており、令和5年度からは優秀作品を展示する写真展を都内で開催し、広域圏の魅力や魅力を全国に発信している。



プロジェクトの一つ「笹川のあばれ地蔵」